

—ノーベル賞の闇裏側事情<世襲貴族没落防止同盟としての政治機能(2)>— '09/1/9.  
2007年, IPCC(国連の他国間気候変動諮問機関) 科学者が受賞, これで世界市民多数が彼らを真に受けたらとんでもない. **問題は科学者の公式答申**, 京都議定書は GHG 源炭素排出 **5%** 削減だが、真相は驚愕の **80%削減**、もう従来生活はない事になる。2008/9, 米国レーマン破綻で世界不況開始、IMPACT(気候急変動解析国家計画)も発動、2009年早々、ロシアは価格問題を口実に極寒欧州へのガス供給停止!

## ①炭素会計真相=80%削減なくば、もはや地球気候環境回復は望めない!!

<[http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP\\_CarbonBudget\\_2007.pdf](http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP_CarbonBudget_2007.pdf)>

(1)炭素会計：年間の(人為+自然)排出炭素量と(海洋+陸上)植生吸収量.

$$\begin{aligned} &+ \text{人為排出炭素量} = 7.5 \text{PgC/y} & P=10^{12}. \quad C \text{ は純炭素成分換算の意味。} \\ &+ \text{自然排出炭素量} = 1.5 \text{PgC/y.} \\ &- \text{海洋植生吸収量} = 2.3 \text{PgC/y} \\ &- \text{陸上植生吸収量} = 2.6 \text{PgC/y} \\ \hline &+ \text{大気蓄積量} = 4.2 \text{PgC/y} \end{aligned}$$

(2)人為排出削減目標量=大気蓄積量+自然排出量=4.2PgC/y+1.5PgC/y=5.7PgC/y。

(3)削減率=人為排出削減目標量/人為排出炭素量=5.7/7.5=0.76=80%!!!!。

(4)人為排出削減量に自然排出量まで加算引き抜く理由は、地球気候環境には海洋巨大熱容量由来の巨大慣性(結果が遅れる)があつて既に正帰還での自然排出増大傾向があり、放置すると**正帰還破壊**ができないからである。詳細真相は専門家にも問うべし。

☞：巨大タンカーが急速転回する為にどうする？、逆噴射しても暫くは前進が止まらない。

☞：自然放出増大ある限り、GHG 増だから温度上昇は停止しない、逆にその温度上昇が更なる自然放出を増大。結果が原因を加速する**破壊機構**が正帰還。これが**最大疫病神!!**。

## ②IPCC 気候変動解析科学者 1000 人の政治心理状況とマスコミ介在での世界市民認識：

物理学関与の筆者自身も間抜けにも 2007 年末 Jucelino 氏気候変動破滅予言を耳にするまで IPCC 答申を全く信用してた。知らない一般人にすれば Nobel 賞なれば一層真に受けよう。だが真相は誰彼にも**超不都合な事**だが上記①。世界のお偉方(世襲貴族-資本家)は自殺願望らしい、圧倒的多数派の世界市民巻き添えで。ちなみに中国侵略を米から非難された日本は秋丸機関報告で対米戦争勝利見込みなしにも拘わらず開戦、昭和天皇が中国撤退での国民不満爆発=国内革命回避の為に負け承知で開戦<**敗戦よりも革命が恐ろしい(近衛文麻呂)**>。お陰で地獄原爆 2 発と戦後は米国植民地に。この事情は現世界も酷似、IPCC 科学者達は秋丸研究機関研究者と同じで真相把握だが政治的に抑圧下。1000 人規模だと逆に**責任転嫁**と**全体同調麻痺**が起こる。現世界を支配するマスコミ介在での死に至る最大心理的病だ。